

第2回 第三国定住に関する有識者会議
2012年6月19日

資料1

**国際移住機関（IOM）による
難民の第三国定住活動**


International Organization for Migration (IOM)
国際移住機関駐日事務所
プログラム・マネージャー 橋本 直子



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

世界における IOMの第三国定住活動と その沿革



IOMと第三国定住

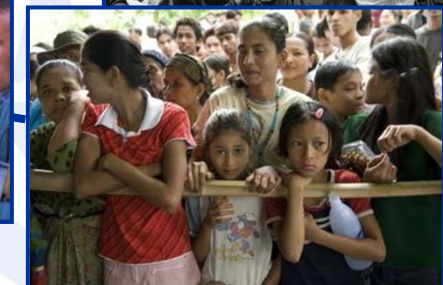
- 1951年設立当初以来の中心的マンドート:IOM憲章
”...*concern itself with the organized transfer of refugees...*”



ジェノバからブラジルへ向かうイタリア移民 ©IOM 1952

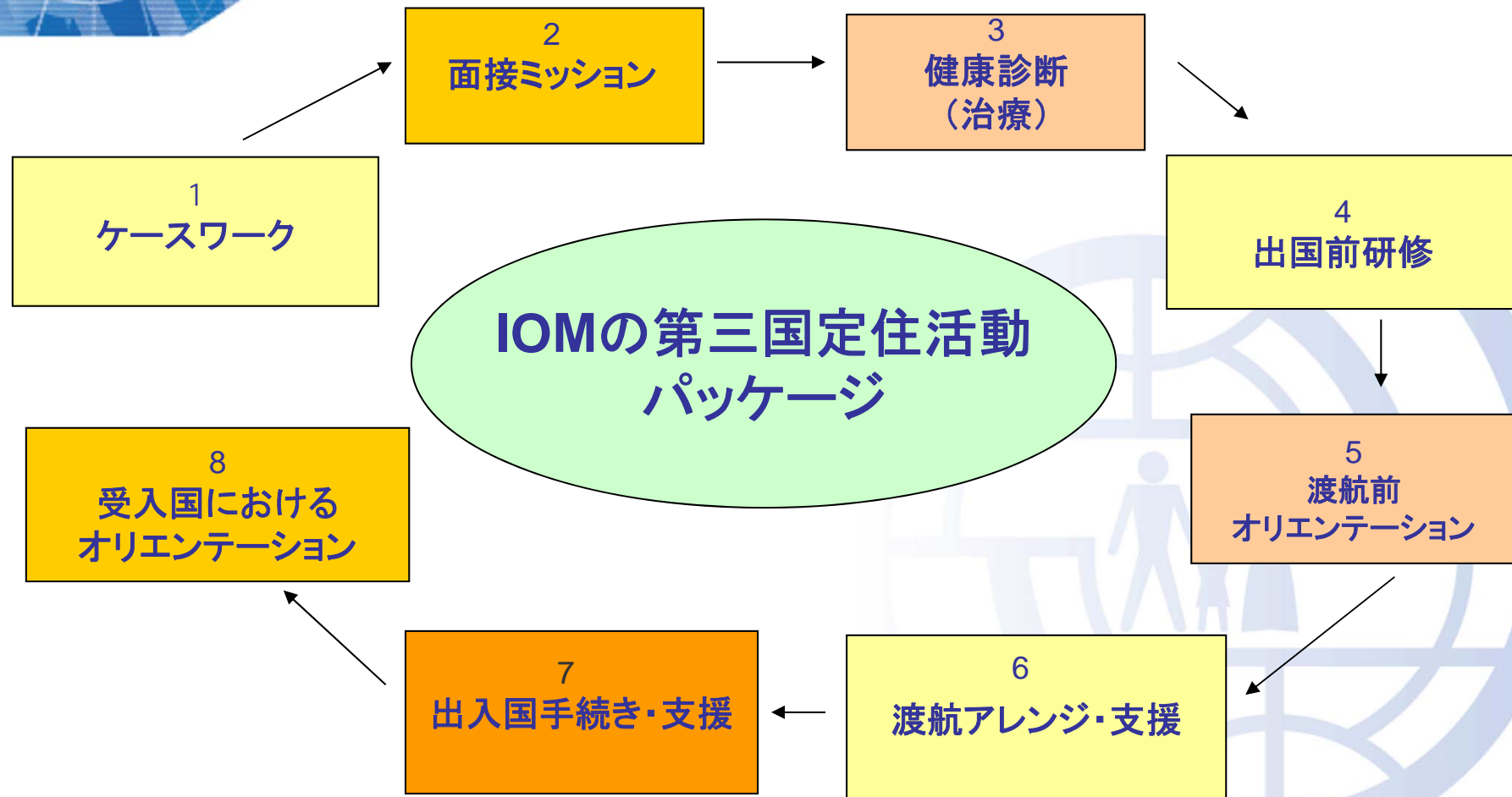
第三国定住支援事業の沿革

- 1956 ハンガリー Hungary
- 1968 チェコスロバキア Czechoslovakia
- 1973 チリ Chile
- 1975 インドシナ Indo-China
- 1979 アフガニスタン Afghanistan
- 1993 ソマリア Somalia
- 2000 旧ユーゴスラビア Balkan
- 2005 ミャンマー Myanmar
- 2007 ブータン Bhutan
- 2008 イラク Iraq



IOMと第三国定住

- 1951年－2008年：約1,500万人の難民の第三国定住を実施
- 2001年－2011年：892,243人の難民を186ヶ所から22カ国へ移動
- 現在：特にアンマン、ダマク、モスクワに、大規模な第三国定住専門事務所(RSC)を設置（他：ボゴタ、カンダハール）
- 主な受入国： 米、加、豪、スウェーデン、ノールウェイ、フィンランド、独、英、デンマーク、NZ、スイス、仏、蘭
- 主な難民出身国： イラク、ミャンマー、ブータン、ソマリアエリトリア、イラン、キューバ、コンゴ民



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

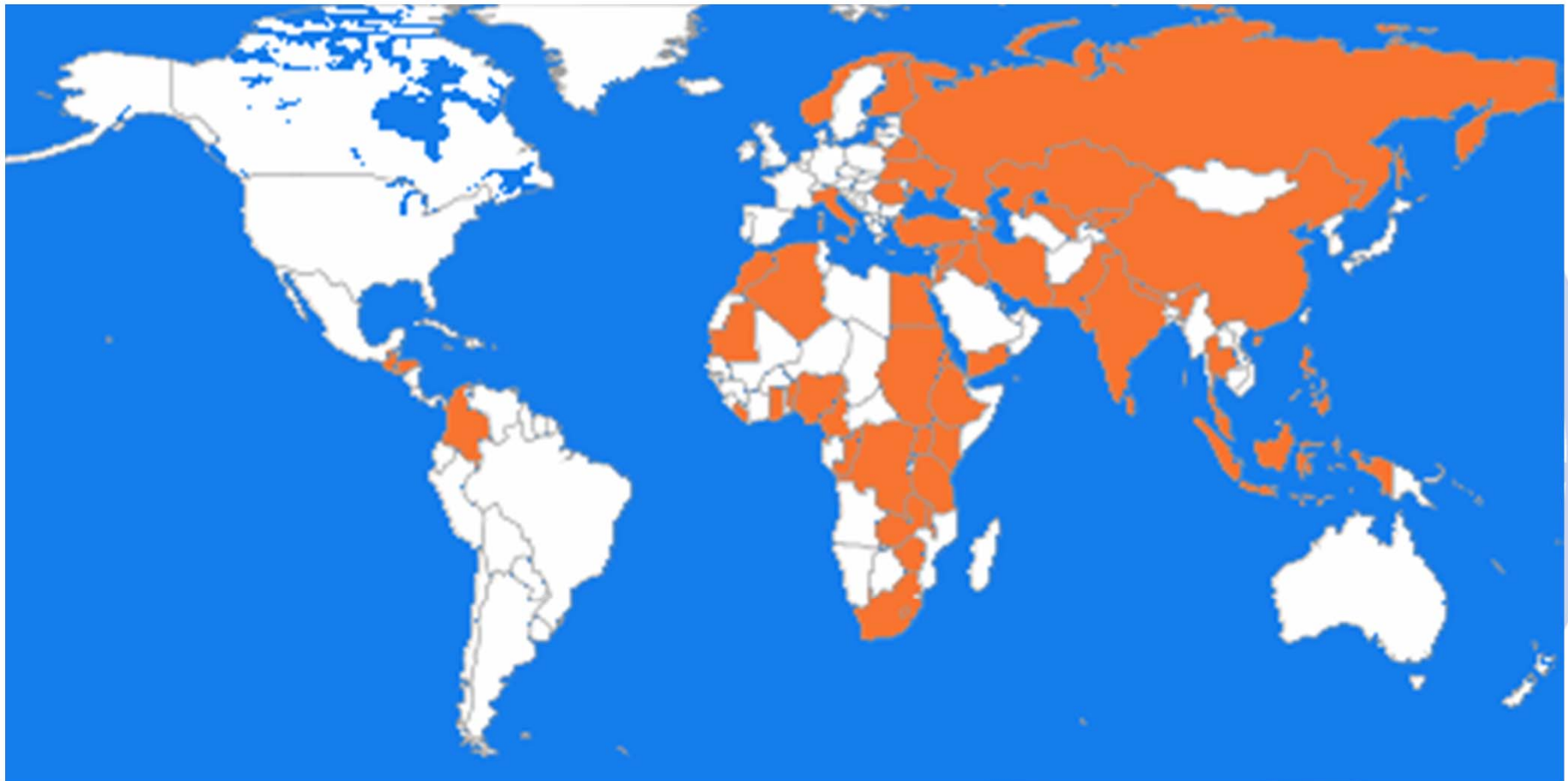
IOMケースワーク実施地



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

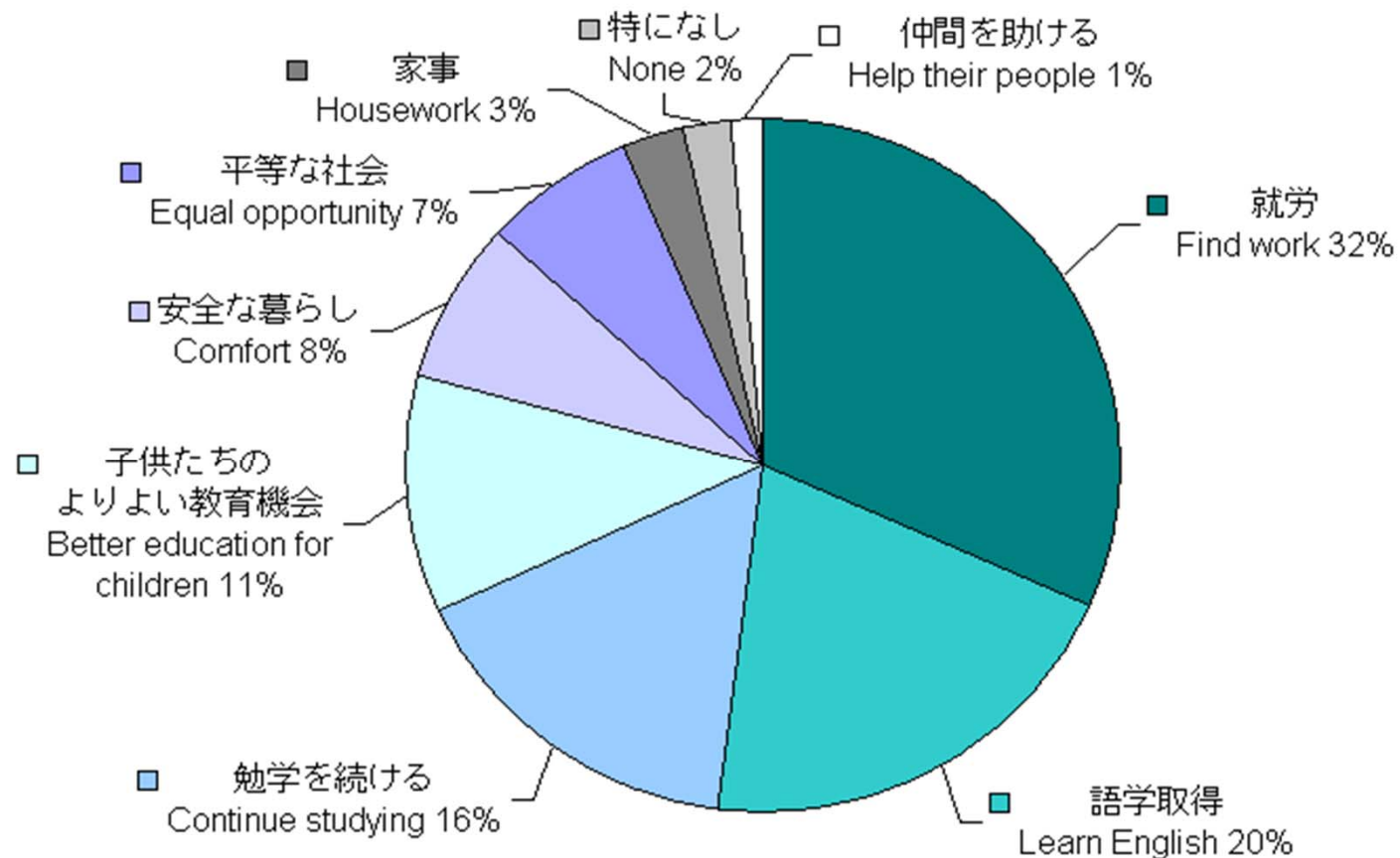
国際移住機関

出国前研修実施地

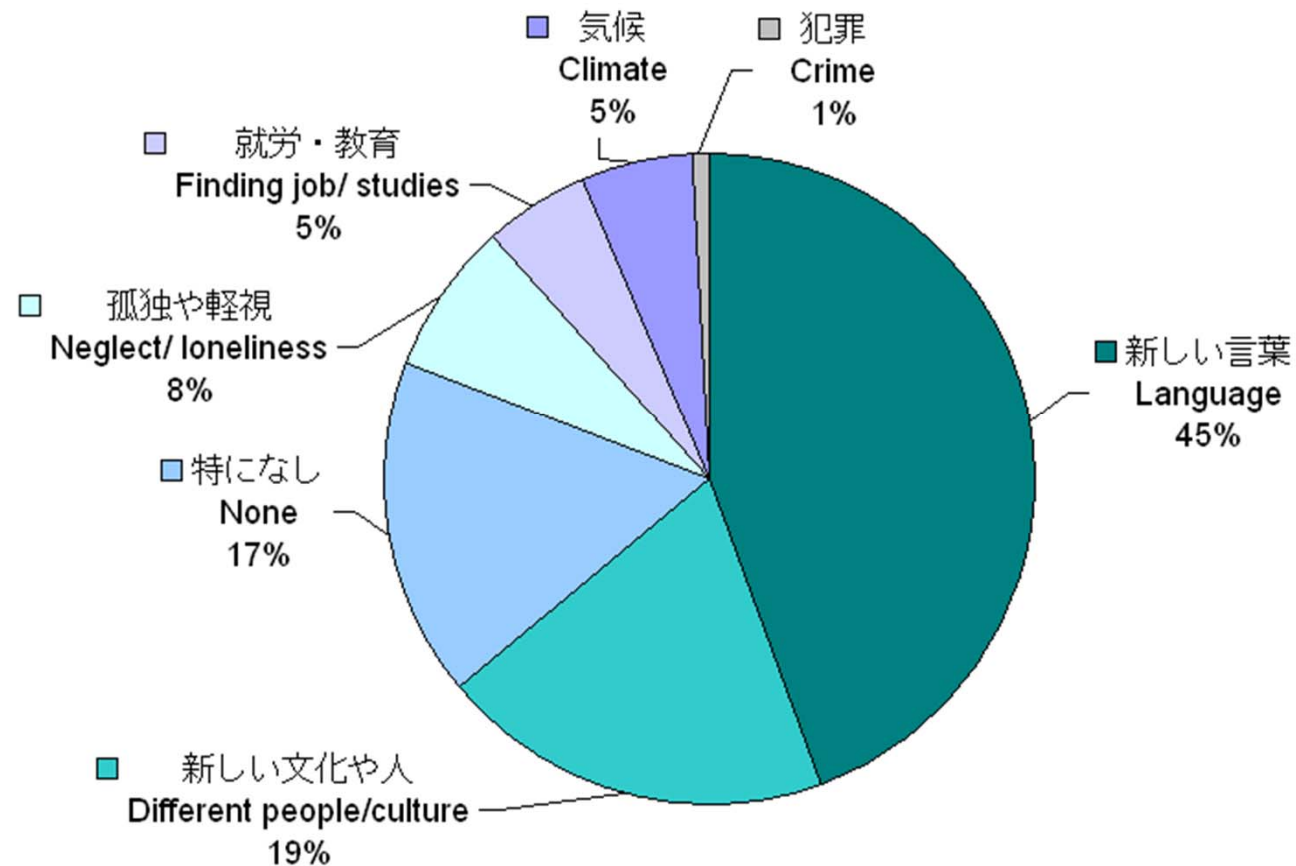


60力国において、毎年約6万人に研修を実施

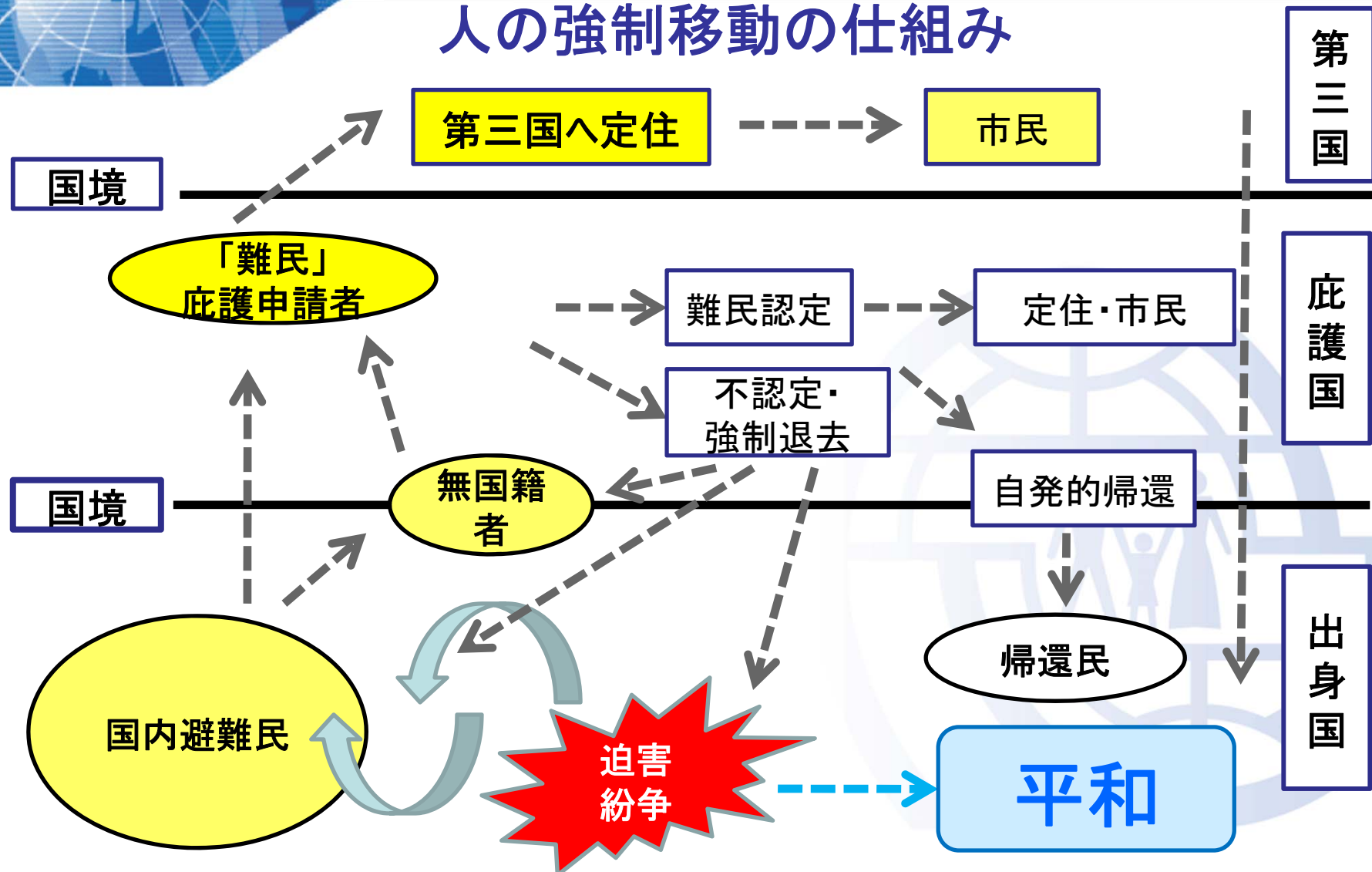
難民の第三国定住への期待



そして懸念 ...



人の強制移動の仕組み






INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

日本における IOMの第三国定住活動と その沿革



IOMと日本

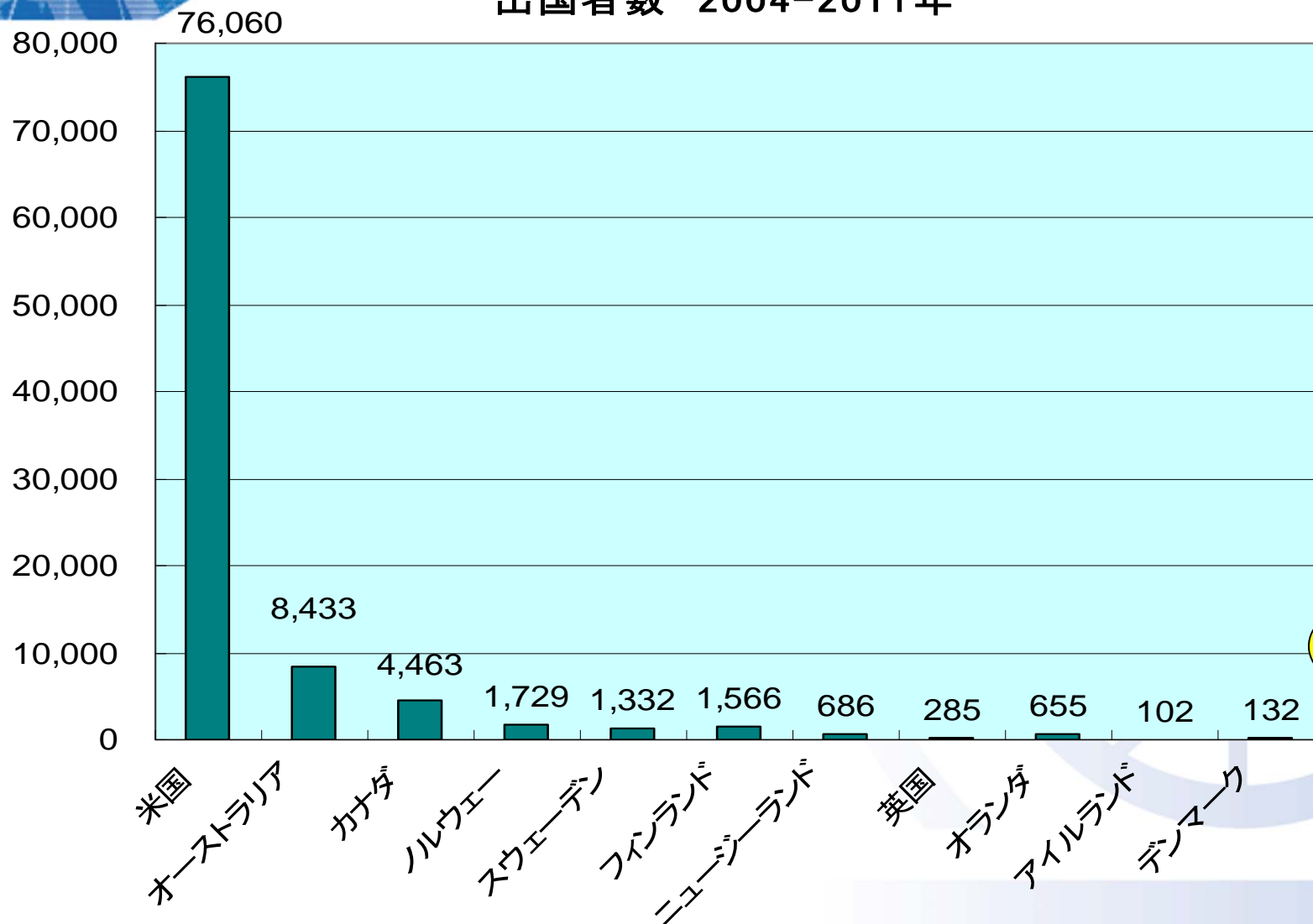
- 1975年後半：インドシナ難民の大量流出
- 1981年：日本政府が難民条約へ加入。
※駐日事務所開設（日本からのインドシナ難民の第三国定住を実施）
- 1982年：日本政府が難民議定書に加入。
- 1990年：湾岸危機 ※外国人労働者の帰国支援
- 1993年：日本政府が正式加盟
- 2004年：日本政府による「人身取引対策行動計画」の策定
※被害者の帰国・社会復帰を支援
- 2004年：タイから北米への第三国定住の本格化（乗り継ぎ支援）
- 2006年：インドシナ難民家族呼び寄せ事業 終了
- 2009年：文科省委託「定住外国人の子どもの就学支援事業」開始
- 2010年：難民の第三国定住パイロット事業開始

成田空港における乗り継ぎ支援

一週間に約100-400名の難民が成田空港を
経由して北米に移住

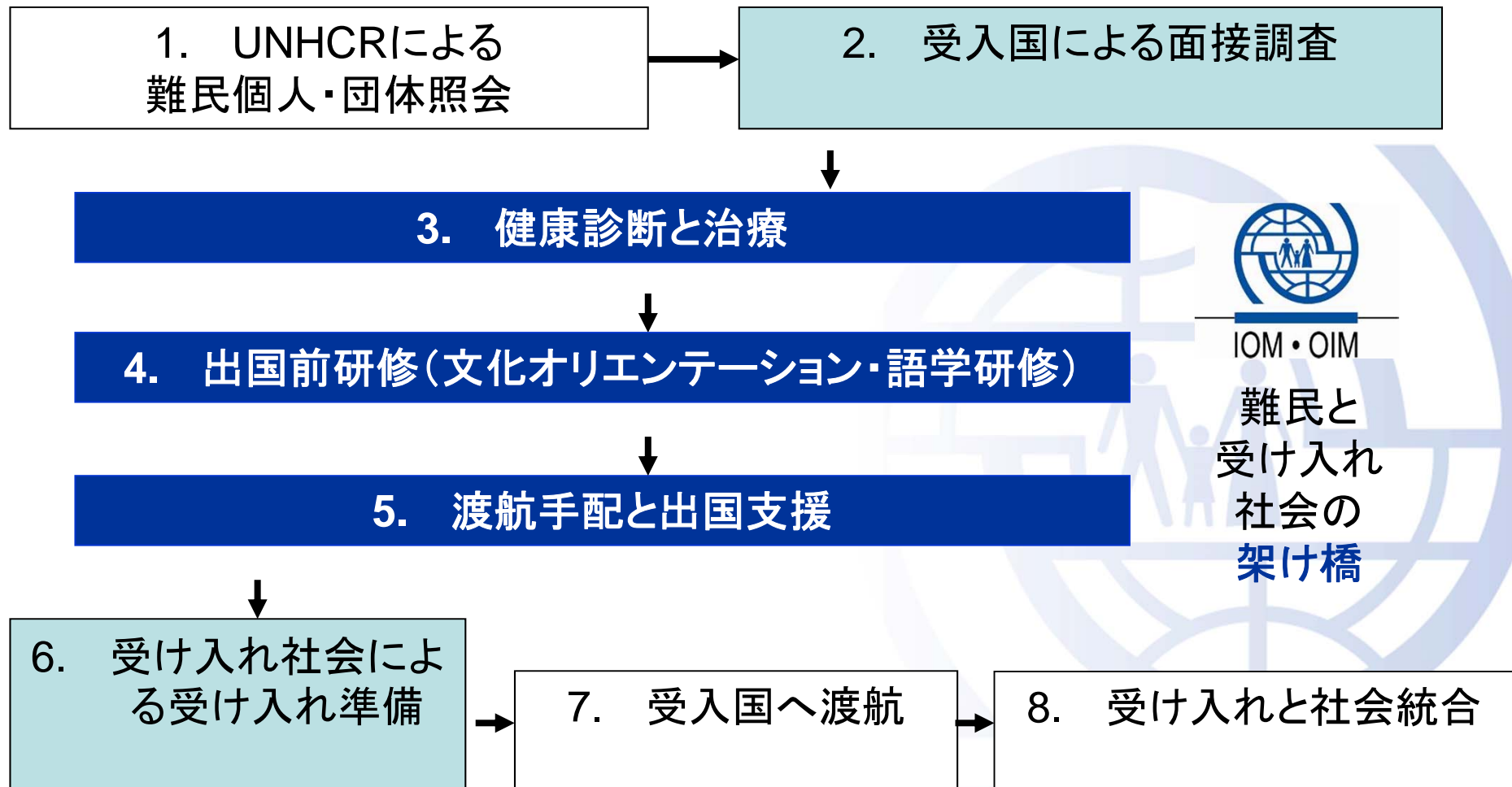


定住国別 IOMによるタイからの
出国者数 2004-2011年



日本!

日本のパイロット事業の流れ





INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

「メーラ・キャンプ」における IOMの第三国定住活動



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

～タイ メラキャンプ～



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

～タイ メラキャンプ～



写真

INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

～タイ メラキャンプ～



写真

INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

～タイ メラキャンプ～



メーラ・キャンプの概要

- 創設: 1984年
- 場所: ターク県ターソンヤン郡
- タイ内務省の管轄下
- 人数: 約32,000～50,000 (ミャンマーとの国境沿いにある9つの難民キャンプのうち最大) (タイ全体では約13万人の難民)
- 民族: 97%カレン族
(うち仏教徒52%、キリスト教徒36%、イスラム教徒11%)
- 面積: 約2320平方km (3つのゾーン)
- 多数の教会(24)、寺院(4)、モスク(5)、学校(29)、商店等あり
- 16名の難民からなる「キャンプ委員会」あり
- 第三国定住の本格化: 2005年～
- IOMの支援で'11年に第三国定住した難民: 2,081人

第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定する前のサービス
 - ・受け入れ国(特にアメリカ)に関する難民への説明
 - ・政府面接ミッションへのロジ面でのサポート



写真

第三国定住難民へのIOMの支援

■ 特定国への第三国定住が決定する前のサービス

- ・先に受け入れ国に定住した難民からの手紙
- ・定期的な「ニュースレター」の発行

写真

写真

第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・包括的健康診断・予防接種、渡航直前適正検診



写真

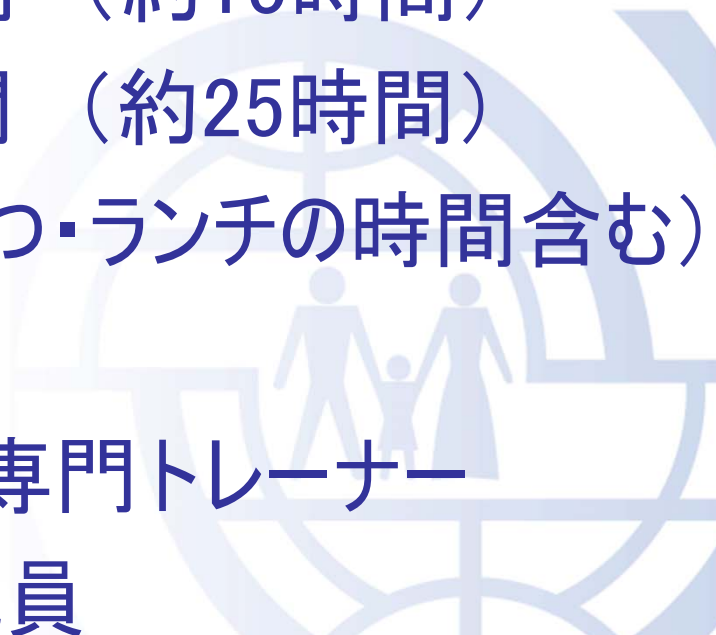
第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・包括的健康診断・予防接種、渡航直前適正検診

写真



日本用出発前 文化研修

- 子ども（5歳～16歳） 3日間（約15時間）
 - 大人（18歳以上） 5日間（約25時間）
両者ともに8時～14時（おやつ・ランチの時間含む）
 - 1日 約5時間
 - メイントレーナー：カレン族の専門トレーナー
 - アシスタント：IOM日本人職員
- 

第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・受入国毎の「文化・適合研修」

1. 受入国の概要
2. 渡航前の手続き一連
3. 到着後の受け入れ・支援母体
4. 住居
5. 交通手段
6. 教育

7. 健康と医療
8. 法律
9. 市民としての権利と義務
10. 雇用機会と就労
11. 家計のやりくり
12. 文化順応
13. 渡航における重要事項

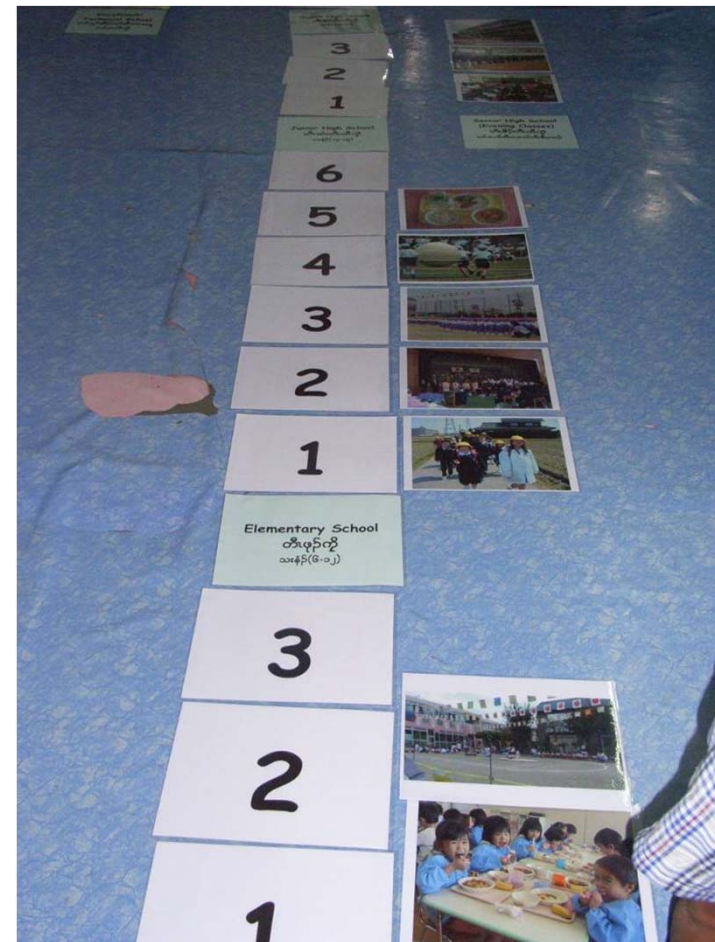
第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス:
受入国毎の「文化・適合研修」



第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス:
受入国毎の「文化・適合研修」




第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
- ・「文化・適合研修」ハンドブックの作成と配布 ・日本語研修ハンドブックの作成と配布



日本用出発前 語学研修

- 子ども(5歳以上)および大人の合同授業
 - 9時～13時、1日4時間 15日間 (約60時間)
(おやつ・ランチの時間含む)
 - メイントレーナー: AJALTの日本語教師
 - アシスタント: IOM日本人職員
- 

第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・語学研修(初歩的なもの)

写真



第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・語学研修(初歩的なもの)



写真



第三国定住難民へのIOMの支援

■ 特定国への第三国定住が決定した後のサービス

- ・難民個々人の各種証明書と渡航文書の準備
- ・渡航と受入国に相応しい衣服等の提供



第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・難民キャンプから空港までの移動や宿泊施設の手配

写真



第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・難民キャンプから空港までの移動や宿泊施設の手配

写真




第三国定住難民へのIOMの支援

- 特定国への第三国定住が決定した後のサービス
 - ・出発・経由・到着空港における出入国手続きなどの各種支援
 - ・(必要な場合には)医者・看護師、IOM職員による付き添い
 - ・到着後の関係各者への通知と確認

写真

写真



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

- 難民受け入れ社会へのサービス
第三国定住難民の文化的背景や個々人に関する資料作成と説明



IOM International Organization for Migration
OIM Organisation Internationale pour les Migrations
OIM Organización Internacional para las Migraciones

～日本への難民の第三国定住～

カレン民族の概要

難民定住支援者用ハンドブック



タイ・ターク県メラ難民キャンプ

日本文化研修用
国際移住機関 (IOM) 駐日事務所
2010年6月

INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

第三国定住難民へのIOMの支援

■ 難民受け入れ社会へのサービス
定住後のフォローアップ



写真



今後への提言

- ヨーロッパ諸国（非移民国家）の例に学ぶ（EU Linking-In）
- 一人一人の難民にあったテ일러メイドの定住支援策の策定、「ケースワーカー」による支援
- 受け入れ地域の地元住民家族による「ホスト・ファミリー」制度
- 「ようこそ先輩！」プログラム
- より長期の出国前研修（語学研修、職業訓練）
- 来日後の定住支援（ノールウェイ：2年、フィンランド：3年）
- 到着後すぐに受け入れ自治体に居住開始
- 都市型難民（urban caseloads）の試験的受け入れ



INTERNATIONAL ORGANIZATION FOR MIGRATION

国際移住機関

ありがとうございました！

国際移住機関(IOM)駐日事務所
プログラム・マネージャー
橋本 直子

電話 +81(0)3 3595 2487

Fax: +81(0)3 3595 2497












E-mail: nhashimoto@iom.int

HP: <http://www.iomjapan.org/>





IOM による難民の第三国定住活動 国別チャート 2011 年

| 主要な第三国定住受入国* | 豪州  (7,123) | カナダ  (12,824) | デン  (1,084) | フィン  (716) | 蘭  (531) | ノル  (2,391) | NZ  (490) | 瑞  (2,389) | スイス  (1,003) | 英国  (631) | 米国  (52,092) |
|--------------|--|---|--|---|---|--|--|---|---|--|---|
| (2011 年の受入数) | | | | | | | | | | | |

< ケースワーク >

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|--|---|---|---|--|--|---|---|
| 1. 難民との面接 | | | | | | | | | | | ● |
| 2. 受入国政府指定の書類準備・記入 | ● | | | | | | | | | | ● |
| 3. 通訳・翻訳 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 4. 政府面接ミッションの準備・ロジ支援、日程調整 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 5. 個人ケース・ファイルの管理 | | | | | | | | | | | ● |
| 6. データベース管理、報告、統計作成 | | | | | | | | | | | ● |
| 7. 受け入れ国に関する広報キャンペーン | | | | | | | | | | | ● |

< 出国前健康診断・治療・衛生管理 >

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|
| 8. 身体検査 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 9. 胸部 X 線写真撮影と診断 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 10. 結核検査（塗抹検査と培養菌検査） | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | ● | ● |
| 11. 血液検査 他 | ● | ● | ● | | ● | | ● | | | ● | ● |
| 12. 予防接種 | ● | ● | | | ● | | ● | | | ● | ● |
| 13. その他の 出国前健康診断 | ● | ● | | | | | | | | | ● |
| 14. 渡航直前適性検査 | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● |
| 15. 医療関係者によるエスコート・渡航中の医療器具のアレンジ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● |
| 16. 治療・経過観察 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● |
| 17. 難民グループの健康状態に関するデータ収集・管理 | ● | | | | | | | | | | ● |

< 出国前研修・生活ガイダンス >

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|--|---|---|---|--|--|--|---|---|
| 18. 個々人のニーズ調査・プロフィール作成 | | ● | | | | | | | | | |
| 19. 難民グループの概要説明 | ● | ● | | ● | | ● | | | | ● | ● |
| 20. カリキュラム開発 | ● | ● | | ● | ● | ● | | | | ● | ● |
| 21. 出国前生活ガイダンスの実施 | ● | ● | | ● | ● | ● | | | | ● | ● |
| 22. 出国前語学研修の実施 | | | | | ● | | | | | ● | ● |
| 23. 渡航前オリエンテーション | ● | ● | | | ● | | | | | ● | ● |

< 渡航支援 >

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24. 第一次庇護国内の移動・出国手続き | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 25. 中継地での宿舎確保 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 26. 搭乗前のフライト説明 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 27. 難民に適した渡航ルートの確保 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 28. 搭乗手続き・乗り継ぎ・到着時手続きの支援 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 29. エスコート | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 30. 渡航前・中・後の連絡と報告 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

* アルゼンチン (28), 白 (33), ブルガリア (0), チリ (23), チェコ (0), 仏 (121), 独 (153), ハンガリー (2), アイスランド (0), アイルランド (53), 伊 (0), 日本 (18), パラグアイ (0), ルーマニア (243), スペイン (0), ウルグアイ (4)

IOM による難民の第三国定住活動

< ケースワーク >

| | |
|---|---|
| 1 | 難民との面接: 難民個々人の人定事項の収集、背景事情の聞き取り、受入国の言語への翻訳。 |
| 2 | 受入国政府指定の書類準備・記入: 受入国政府指定の出入国管理関連書類への記入（申請書、健康診断票、生体データ等）。 |
| 3 | 通訳・翻訳: 通訳者の選定・研修・契約・監督、および関連文書の翻訳。 |
| 4 | 政府面接ミッションの準備・ロジ支援、日程調整: 政府面接官及び難民のための宿舍確保、面接室の準備、事務作業支援、移動手段の確保、難民とのアポ取り等。 |
| 5 | 個人ケース・ファイルの管理: 難民個々のケース・ファイリング（電子媒体・紙媒体）。 |
| 6 | データベース管理、報告、統計作成: 受入国別データベース管理、IOM 独自のデータベース、リアル・タイム統計、報告システムの管理運営。 |
| 7 | 受け入れ国に関する広報キャンペーン: 第三国定住プログラムと受入国に関する広報キャンペーンの実施、右に関する UNHCR 及び受入国政府との調整。 |

< 出国前健康診断・治療・衛生管理 >

| | |
|----|---|
| 8 | 身体検査: 詳細な身体検査、検査前後のカウンセリング、問診、精神状態の診断、予防接種履歴の確認。全ての検査は本人の書面での合意に基づく。 |
| 9 | 胸部 X 線写真撮影と診断: 対象年齢者に対する胸部 X 線写真撮影と診断。プロの放射線技師が実施。 |
| 10 | 結核検査（塗抹検査と培養菌検査）: 塗抹サンプルの細菌検査および培養菌検査（必要な場合のみ）、多剤耐性の肺結核の場合のラボ分子検査。 |
| 11 | 血液検査その他: 梅毒、HIV/AIDS、B 型 C 型肝炎、DNA 血清検査、検尿、検便など、受入国政府の要請に基づく諸検査。 |
| 12 | 予防接種: BCG、三種混合、B 型肝炎、ジフテリア、破傷風、百日咳、髄膜炎、ポリオ、日本脳炎など、受入国の基準および難民個々人の接種歴に合わせて実施。 |
| 13 | その他の 渡航前治療: 渡航日に近づいてからの追加的検査、治療、予防接種など、新たな感染症や症状の悪化を防ぐために実施。 |
| 14 | 渡航直前適性検査: 飛行機搭乗 24～48 時間前に、渡航に適した心身の状態かどうかを検診し、難民本人および他の一般の乗客に悪影響が及ばない状態であることを再確認。 |
| 15 | 医療関係者によるエスコート・渡航中の医療器具のアレンジ: 病気や障がいを抱える難民が渡航する場合の、IOM の医師・看護師の同行。車椅子、担架、酸素ボンベ、機内での医療行為、中継地や到着地での救急車のアレンジ等。 |
| 16 | 治療・経過観察: 活動性結核、梅毒、その他の性感染症の経過観察および沈静化、マラリア治療、駆虫等。 |
| 17 | 難民グループの健康状態に関するデータ収集・管理: IOM が支援する難民グループの健康状態の傾向と統計のデータベース化、国際疾病分類コード（ICD）に則った整理・分析。 |

< 出国前研修・生活ガイダンス >

| | |
|----|--|
| 18 | 個々人のニーズ調査・プロフィール作成: 受入国に渡航した後の個々の難民の定住を促進するため、渡航前に家族毎の面接を通じて難民一人一人のプロフィールを作成、定住支援団体や受入国政府に渡航前に共有。 |
| 19 | 難民グループの概要説明: 主に受入国において定住支援に携わる個人・団体向けの難民グループの概要冊子。難民の日常生活、生計、学歴、言語、文化背景、宗教、定住において想定される問題・注意点などを網羅。 |
| 20 | カリキュラム開発: 難民の背景にあった出国前研修カリキュラムの作成。受入国政府や定住支援団体と内容を事前に調整し、重要な点が出発前に難民に確実に伝わるよう工夫。 |
| 21 | 出国前生活ガイダンスの実施: 難民の母語を話す多言語・多文化インストラクターによる 3～5 日間の生活ガイダンス。大人、青年、子どもクラスに分けることも。 |
| 22 | 出国前語学研修の実施: 最長 30 日間の出発前語学研修 |
| 23 | 渡航前オリエンテーション: 人生初の飛行機での渡航に備えるもの。出発手続き、機内での注意事項、乗り継ぎ・到着時の説明、パッキング方法、トイレ・トレーニング、オムツの使い方、乳幼児の渡航上の注意事項などを丁寧に説明。 |

< 渡航支援 >

| | |
|----|---|
| 24 | 第一次庇護国内の移動・出国手続き: 難民の現在の居住地（キャンプ）から国際空港までの移動（陸路、空路。チャーター便の場合も）。キャンプ出場および庇護国からの出国のための諸手続き。 |
| 25 | 中継地での宿舍確保: 大規模第三国定住プログラムの場合、一時滞在所での渡航前夜の宿泊、渡航直前適正検査、渡航前オリエンテーションの実施。 |
| 26 | 搭乗前のフライト説明: 搭乗直前の、フライト情報に関する最終説明と確認。 |
| 27 | 難民に適した渡航ルートの確保: IOM が多数の民間旅客機会社との締結している特別な契約に基づき、最も安価で、最短で、難民に適した渡航ルートを確認。柔軟に変更やキャンセルも行う。 |
| 28 | 搭乗手続き・乗り継ぎ・到着時手続きの支援: 出入国、税関、検疫、携行品手続き等に関する各地空港内での支援。 |
| 29 | エスコート: 特に脆弱な立場にある難民については、受入国政府との合意に基づき、特別エスコートをつける場合も。 |
| 30 | 渡航前・中・後の連絡と報告: IOM 内部のデータベースとオンライン報告システムを通じて、リアルタイムで全難民の渡航状況をアップデート、関連機関に連絡・報告。渡航終了後に詳細な統計資料の作成。 |

Nationality abbreviation

| | | | |
|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| AF = Afghan | ET = Ethiopian | NG = Nigerian | ZW = Zimbabwean |
| AZ = Azerbaijani | GB = British | NP = Nepalese | |
| BI = Burundi | GN = Guinean | OO= Stateless | |
| BD = Bangladeshi | HM = Hmong | PH = Filipino | |
| CA= Canadian | ID = Indonesian | PK = Pakistani | |
| CD = Congolese | IR = Iranian | PS = Palestinian | |
| CI = Ivorian | IQ = Iraqi | SD = Sudanese | |
| CM = Cameroonian | JM = Jamican | SO = Somalian | |
| CN = Chinese | KH = Cambodian | TH = Thai | |
| CO = Columbian | LK = Sri Lankan | UZ = Uzbekistani | |
| EG = Egyptian | LR = Liberian | VN = Vietnamese | |
| ER = Eritrean | MM = Burmese | YE = Yemeni | |



International Organization for Migration (IOM)
Organisation internationale pour les migrations (OIM)
Organización Internacional para las Migraciones (OIM)

IOM Assisted Departures from Thailand (Refugee Resettlement, Family Reunion, Assisted Voluntary Return, and National Migration)
As of 30 April 2012

| Breakdown | Australia | Canada | Czech | Denmark | Finland | Ireland | Japan | Netherlands | New Zealand | Norway | Sweden | UK | USA | Others | Total | Total MM |
|-----------|-----------|--------|-------|---------|---------|---------|-------|-------------|-------------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|----------|
| Year 2004 | 74 | 45 | 0 | 10 | 27 | 0 | 0 | 19 | 7 | 165 | 46 | 0 | 10 442 | 0 | 10 835 | 1 474 |
| Year 2005 | 391 | 10 | 0 | 74 | 92 | 0 | 0 | 1 | 3 | 304 | 330 | 55 | 6 968 | 0 | 8 228 | 2 420 |
| Year 2006 | 757 | 794 | 0 | 7 | 208 | 0 | 0 | 115 | 201 | 355 | 357 | 81 | 2 681 | 5 | 5 561 | 4 911 |
| Year 2007 | 1 520 | 1 611 | 0 | 9 | 383 | 97 | 0 | 96 | 158 | 460 | 212 | 111 | 10 380 | 9 | 15 046 | 14 636 |
| Year 2008 | 1 563 | 697 | 0 | 1 | 308 | 0 | 0 | 189 | 25 | 84 | 143 | 29 | 14 406 | 7 | 17 452 | 17 172 |
| Year 2009 | 2 332 | 874 | 0 | 11 | 240 | 0 | 0 | 27 | 116 | 297 | 134 | 5 | 13 033 | 10 | 17 079 | 16 690 |
| Year 2010 | 1 011 | 350 | 23 | 16 | 129 | 3 | 27 | 100 | 5 | 51 | 89 | 4 | 10 013 | 8 | 11 829 | 11 107 |
| Year 2011 | 794 | 82 | 0 | 4 | 179 | 2 | 18 | 108 | 171 | 13 | 21 | 0 | 8 137 | 14 | 9 543 | 9 263 |

| | January | | | February | | | March | | | April | | | May | | | June | | |
|--------------|---------|---------------------|-----|----------|------------------------------------|-----|-------|----------------|-----|-------|---------------------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM |
| Ex: Thailand | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Australia | 60 | | 60 | 78 | | 78 | 12 | | 12 | 14 | AU3, TH1 | 18 | | | | | | |
| Canada | | | | 2 | LK1 | 3 | 4 | KH1 | 5 | | LK1 | 1 | | | | | | |
| Czech | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Denmark | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Finland | | CN1 | 1 | | | | | LK7 | 7 | 7 | CN1, PK12 | 20 | | | | | | |
| Ireland | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Netherlands | | | | 6 | | 6 | | | | 25 | CN1, OO1, PK31, LK4 | 62 | | | | | | |
| New Zealand | 37 | | 37 | | | | 25 | ET1, LK13 | 39 | | | | | | | | | |
| Norway | 1 | | 1 | 2 | | 2 | 3 | | 3 | 4 | | 4 | | | | | | |
| Sweden | 9 | | 9 | 6 | | 6 | | | | | | | | | | | | |
| U.K. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| U.S.A. | 653 | OO2, TH26, SO1, PK4 | 686 | 541 | CN4, IQ2, NP1, PK18, SO1, LK4, VN1 | 572 | 378 | PK12, SO6, CN3 | 399 | 181 | CN2, PK14, SO1, LK5 | 203 | | | | | | |
| Others | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total | 760 | | 794 | 635 | | 667 | 422 | | 465 | 231 | | 308 | 0 | | 0 | 0 | | 0 |

| | July | | | August | | | September | | | October | | | November | | | December | | | Total 2012 | Total MM 2012 |
|------------------------------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|-----------|-----|----------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|----------|-----|----------|---------------|---------------|
| | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | MM | OTH | SUM | | |
| <u>Ex: Thailand</u> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Australia | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 168 | 164 |
| Canada | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | 6 |
| Czech | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| Denmark | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| Finland | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28 | 7 |
| Ireland | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| Japan | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| Netherlands | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 68 | 31 |
| New Zealand | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 76 | 62 |
| Norway | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 10 |
| Sweden | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 15 | 15 |
| U.K. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| U.S.A. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 860 | 1 753 |
| Others | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| Total | 0 | | 0 | 0 | | 0 | 0 | | 0 | 0 | | 0 | 0 | | 0 | 0 | | 0 | 2 234 | 2 048 |
| GRAND TOTAL 2004-2012 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 97 807 | 79 721 |

GRAND TOTAL 2004-2012

Resettled Myanmar Refugees by Locations (as of 30 Apr 12)

| Locations | Jan | Feb | Mar | Apr | May | Jun | Jul | Aug | Sep | Oct | Nov | Dec | Total |
|----------------------|------------|------------|------------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-------------|
| BKK/IDC/Outside camp | 1 | 4 | 11 | 4 | | | | | | | | | 20 |
| Ban Mae Nai Soi | 30 | 20 | 47 | 45 | | | | | | | | | 142 |
| Ban Mae Surin | 0 | 21 | 11 | 0 | | | | | | | | | 32 |
| Mae La Oon | 39 | 112 | 102 | 36 | | | | | | | | | 289 |
| Mae Ra Ma Luang | 26 | 161 | 123 | 36 | | | | | | | | | 346 |
| Mae La | 401 | 168 | 51 | 38 | | | | | | | | | 658 |
| Umpium Mai | 83 | 57 | 36 | 28 | | | | | | | | | 204 |
| Nu Po | 124 | 67 | 36 | 9 | | | | | | | | | 236 |
| Ban Don Yang | 56 | 18 | 0 | 0 | | | | | | | | | 74 |
| Tham Hin | 0 | 7 | 5 | 35 | | | | | | | | | 47 |
| Total | 760 | 635 | 422 | 231 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2048 |

Resettled Myanmar Refugees by Resettlement Countries/Camps

| Locations | Australia | Canada | Czech | Denmark | Finland | Ireland | Japan | Norway | Netherlands | New Zealand | Sweden | U.K. | U.S.A. | Others | Total |
|----------------------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-------------|-------------|-----------|----------|-------------|--------|-------------|
| BKK/IDC/Outside camp | 4 | 4 | | | | | | 10 | | | | | 2 | | 20 |
| Ban Mae Nai Soi | 13 | | | | | | | | | 13 | | | 116 | | 142 |
| Ban Mae Surin | 9 | | | | | | | | | | | | 23 | | 32 |
| Mae La Oon | 37 | | | | | | | | | | | | 252 | | 289 |
| Mae Ra Ma Luang | 53 | 2 | | | | | | | | | 10 | | 281 | | 346 |
| Mae La | 38 | | | | | | | | | 27 | | | 593 | | 658 |
| Umpium Mai | 10 | | | | | | | | | 9 | 3 | | 182 | | 204 |
| Nu Po | | | | | | | | | | 19 | 2 | | 215 | | 236 |
| Ban Don Yang | | | | | | | | | | | | | 74 | | 74 |
| Tham Hin | | | | | 7 | | | | 25 | | | | 15 | | 47 |
| Total | 164 | 6 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 10 | 25 | 68 | 15 | 0 | 1753 | | 2048 |



IOM International Organization for Migration
OIM Organisation Internationale pour les Migrations
OIM Organización Internacional para las Migraciones

～ 日本への難民の第三国定住 ～

カレン民族の概要

難民定住支援者用ハンドブック



タイ・ターク県メラ難民キャンプ

日本文化研修用
国際移住機関（IOM）駐日事務所
2010年6月

1. ミャンマー

人口約 5000 万人のミャンマー¹は、石油、ガス、貴石、広大で肥沃な土地など、豊かな資源をもつ国です。その豊かさから「アジアの米びつ」と呼ばれたこともありましたが、現在では、世界で最も貧しい 10 カ国のうちのひとつです。人口の約半数が貧困線以下の生活をおくり、約 200 万人が迫害等を逃れて近隣諸国に避難し、60 万人から 100 万人が国内避難民となっています。

民族の多様性

ミャンマー政府の公式見解によると、国内には約 135 の民族が暮らしているとされています。しかし通常は、多数派のビルマ民族 (Burman) と、民族州を付与されたカレン (Karen)、モン (Mon)、シャン (Shan)、チン (Chin)、アラカン (Arakan)、カチン (Kachin)、カレンニー (Karenni) という 7 つの少数民族からなる、合計 8 つのグループに分けられます。ほかにもインド系、中国系の諸民族や、ロヒンジャ (Rohingya) などがいます。民族意識の持ち方は人それぞれですが、政府との関係が良好でない少数民族は一般に、自らをミャンマー / ビルマ国民 (Burmese) と考えるよりは各民族に帰属する何者かととらえ、それぞれ強いアイデンティティを持つ傾向があります。

近現代史と民族

ミャンマーは、19 世紀にイギリスの植民地となってから、近代国家としておおむね一つに統合されました。植民地支配下で民族意識が醸成され、ビルマ民族をはじめカレンなどの民族運動が始まりました。ビルマ民族のナショナリストであるタキン党は、日本占領期 (1942-45 年) に日本軍と結びつき、そして日本軍を追い出すことによって独立運動の主流派となりました。タキン党の指導者であったアウン・サン将軍 (アウン・サン・スー・チー女史の父) は 1947 年に暗殺されますが、植民地宗主国イギリスとの交渉は成功し、翌 1948 年に独立を達成します。

イギリスが去ると、民族によって分けられる人々も含めて多様なグループが権利を主張し、内戦が始まりました。カレンやモン、カレンニー、アラカンなどの少数民族勢力や共産党が武装蜂起し、一時は首都ヤンゴンが孤立する状況までになりました。1950 年代前半に国軍が少数民族の将校や部隊を放逐してビルマ化し結束を高めると、このような武装勢力は国境部へと押しやられていきました。少数民族の蜂起はこの後も続き、1950 年代後半には北方のカチンやシャン系の勢力も武装闘争に入っています。その一方で中央の政治では、タキン党系の勢力が政治闘争と派閥角逐を繰り返し、混乱が長く続くことになりました。

¹ 政府当局は 1989 年に、国名の対外呼称を「ミャンマー」に変更しました。IOM は国連と同様、国連加盟国としての国名である「ミャンマー」を採用しています。

1962 年、連邦分解の危機感を抱いた国軍のネーウィン将軍がクーデターによって権力を掌握し、最初の軍政時代が始まります。1988 年にネーウィンの長期政権は民主化運動によって倒れましたが、同年 9 月の軍事クーデターにより再び軍事政権が生まれ、現在もその状態を維持しています。

2. カレン

カレン民族は現中国・雲南地方から南下して、現在ミャンマーと呼ばれている地域に最初に定住したグループのひとつだと言われています。植民地下の統計(1931 年)ではビルマ民族について第2、軍政下の統計(1983 年)ではシャン民族について 3 番目の人口規模をもつ民族とされています。カレン民族の中でもキリスト教徒(とくにバプティスト派)は非常に強い民族意識をもっています。しかし、ミャンマーという国自体が多様であるのと同様に、カレン自身も大変に多様な人々です。

言語と宗教

外部から「カレン」とひとくくりにされる集団には、言語学的に 40 前後のサブ・グループが含まれるとされ、スゴー(Sgaw)語とポー(Pwo)語という互いに意思疎通の困難な言語を話す 2 グループが、通常、カレンと呼ばれる人々の中核を構成しています。スゴーとポーは、ビルマ語を共通語として話すことがよくあります。また、何年間も難民キャンプで暮らしたポーの大部分はキャンプでスゴーと一緒に教育を受けてきたため、スゴー語を流暢に話すことができます。言語学的には同じカレン系に分類されても、現在では別個の民族的アイデンティティを持つカレンニーやパオ(Pao)、パダウン(Padaung)などの人々もいます。カレンニーの多くの部分がカトリック、パオは大部分が仏教徒です。植民地下の 1931 年の国勢調査によると、カレン民族の約 77%が仏教徒、16%がキリスト教徒、7%が精霊信仰者(アニミスト)とされています。

カレン民族の歴史

19 世紀以前のカレンに関する記録は断片的です。現在のような民族としての一体的な意識は、植民地時代以降に形成されたと考えられています。

カレンによる大規模なキリスト教受容は、19 世紀初頭に来訪したアメリカ人宣教師によるバプティスト宣教活動に始まります。宣教過程で強固な民族的アイデンティティが形成されました。キリスト教化したカレンは、イギリス植民地政府側と親和的な関係を結びました。発言力を伴ったキリスト教徒カレンの社会的存在感が高まり、カレンと言えば「親英的で反ビルマ民族的なキリスト教徒」というイメージが出来上がりました。植民地時代、多数派の仏教徒のカレンはあまり民族的主張を行いませんでした。

仏教徒とキリスト教徒のカレンが社会的に結びついたのは、日本占領期の頃からです。1942 年、日本軍のミャンマー侵攻にともなう混乱のさなか、ミャンマー史上初めてのカレン＝ビルマ民族間の衝突事件(ミャウンミヤ事件)が起きました。自らを「カレン」とあまり意識していなかった仏教徒の多くがビルマ民族との抗争・殺戮に巻き込まれ、両民族間の憎悪感情は占領期全般を通して高まり続けました。このときに悪化した両民族関係は結局、修復されることはありませんでした。

独立を目前にした 1947 年 2 月に、カレン民族同盟(KNU)が設立されました。カレンの民族組織としては、ビルマ民族のそれよりも四半世紀も早い 1881 年にカレン民族協会(KNA)が設立されています。KNU は戦中に結成されたカレン中央機構(KCO)を再編した、KNA の流れをくむ組織として発足しました。KNU は独立ミャンマーにおけるカレンの民族的権利確保の枠組みを求めて、キリスト教徒のリーダーシップの下、仏教徒カレンやパオ、カレンニー、パダウンなどカレン系言語を話す諸集団を広く糾合した運動を形成しました。しかしアウン・サン將軍の暗殺の後、1947 年憲法が成立する頃にはカレンの運動は分裂に陥り、独立後の 1949 年 1 月末、カレン諸派のうち主流派であった KNU は武装蜂起をします。当初、ミャンマー南部一帯に勢力を誇りましたが、国軍の攻勢の前に次第に撤退を余儀なくされ、1970 年代ごろから東部のミャンマー＝タイ国境の山岳地帯を拠点として活動するようになって、現在に至っています。

1994 年暮れに、KNU 内部における仏教徒の一団が軍政側と通じ、民主カレン仏教徒機構(DKBA)として分裂し、ジャングル内で KNU の長らくの軍事拠点であったマナプローも翌年に陥落しました。KNU の軍事的弱体化は、タイ側へのカレン難民のさらなる流出、ミャンマー側でのカレンの国内避難民化を引き起こしている一因であるともいえます。

ミャンマーでのカレン民族の生活

ミャンマーにおける正式な国勢調査は 1983 年が最後ですが、数値の正確さについては疑問視する意見もあります。カレン民族人口は 400 万から 800 万人の間とされ、ミャンマーの人口の 10%前後にあたります。カレンの主な居住地であるミャンマー南部に限定すると、人口比率は全体の 2 割に及ぶことになります。ミャンマーの諸少数民族は、おおむね自民族固有の土地を周辺山岳部に持っています。カレンもまたカレン州を持っているのですが、他の少数民族と異なり、カレン人口の大部分はミャンマー南部にビルマ民族と混住するかたちで広がっています。

西部のエーヤワディ川デルタ地方は、このような混住の典型的な土地柄です。人口の 8 割近くはビルマ民族ですが、農村部では村単位でビルマ村、仏教徒ポー村、仏教徒スゴー村、キリスト教バプティスト派スゴー村、キリスト教バプティスト派ポー村、カトリック・ポー村、英国国教会派スゴー村などと別れてモザイク状に分布し、比較的大きな町ではカレン地区が含まれていることが多いようです。ヤンゴン市でも、南西部のアローン地区から北上してチーミンダイン、インセインにいたる地域にはカレンが多いことが知られています。ほ

かにもバゴー管区、モン州、タニンダーイー管区一帯、そしてもちろんカレン州に多くのカレン系の人々が住みます。

このような言語、宗教、居住地域の多様性はすなわち、カレンと呼ばれる人々の意識の多様性を意味します。おのおののカレンの置かれた諸条件によって、自らの民族意識や多数派のビルマ民族との関係性、政治的意見などは決して一様ではありません。従って、カレン語がほとんど話せなくなっている仏教徒のポー・カレンもいれば、強固なコミュニティを守りカレン意識を守っているバプティスト・スゴーもいます。ビルマ仏教徒と結婚して民族融和と宗教の寛容を唱えるキリスト教徒カレンもいれば、そのようなことを容認しない仏教徒カレンもいます。外側の世界で印象として語られる「親英的で反ビルマ的なキリスト教徒」としてのカレンのイメージは、必ずしも実態と一致しているとは言えません。

カレン州東部国境地帯のカレン

タイ側の難民キャンプに逃れてくるカレン難民の多くが、カレン州東部国境地帯の、山深い、ミャンマー本土と比較的隔てられた土地柄からやってきます。ミャンマー中央部からも国際社会からも目の届きにくいこのような土地では、ミャンマー国軍と少数民族軍との間でゲリラ戦を主とした戦闘が半世紀以上にわたって行われてきました。

ミャンマー国軍兵士によって強制的に年寄りや若者が道路建設に駆り出されたり、軍のポーター（荷物運搬者）として働かされたりすることもあると言われ、このような土地に住むカレンは常にミャンマー国軍を警戒しています。また、ほとんどの諸少数民族武装勢力は政府側と停戦協定を結び、地域の治安や経済的發展も徐々に見られていますが、KNUのみはかつて一度も政府側と停戦協定を結んだことがなく、KNUと国軍との戦いの影響で、この土地のカレンの人々が逃げ惑う状態は当分変わりそうにありません。戦闘状態が長く続き、停戦協定も結ばれず、開発も及んでいないので、カレン州東部山岳地域のカレンの生活はたいへん貧しい状況に置かれています。生活は質素で、ほとんどの村には電気がなく、外界との交渉もあまりありません。

3. タイでのカレン難民

タイの難民キャンプで暮らす難民の多くの部分が、このようなカレン州東部国境地帯から逃れてきたカレンです。他にもエーヤワディ管区やヤンゴンから逃れてきたカレンも含まれます。現在、ミャンマー国境沿い地域には9つの難民キャンプがあり、約13万人が生活しています。キャンプは国境のすぐ近くにあり、安全性がしばしば問題となります。ミャンマー国軍、あるいは敵対派閥のカレン民族軍が、ときに国境を越えてキャンプを攻撃することもあります。

カレン難民の生活

キャンプでは、支援機関が食料、住居、衛生設備、医療、基礎教育を提供しています。基本的なニーズに限られますが、医療、衛生、教育施設は、ミャンマー国内やタイのキャンプ周辺の村のそれよりも水準が高いといえます。住居は、竹でできた小屋であり、屋根は木の葉で葺いてあります。電力は、発電機で起こしたものがキャンプの施設だけに送られます。一般的に、キャンプは町から遠く離れた場所にあります。これは、タイ政府が、キャン



メラキャンプの住居

プの存在を目立たないようにし、難民がキャンプを出てタイ社会に紛れ込むことを防ごうとしているからです。難民たちは、タイ当局の許可がなければキャンプを出ることができず、許可が出るか否かは場合によります。それにもかかわらず、何パーセントかの難民はタイの小さな町に出て行きます。

メラ(Mae La)キャンプ

メラ難民キャンプは約 32,000 ~ 50,000 人が暮らす最大のキャンプであり、日本はここから難民を受入れようとしています。9 つのキャンプの中で、メラキャンプは最も簡単に訪問することができる場所で、タイの中規模の町メーソットから車で約 50 分です。メラキャンプで暮らす難民の大部分はカレンです。

以下では、キャンプ人口の多くを占めるカレン州東部国境地帯出身のカレンを念頭に、彼らの習慣や価値観を少々図式的にまとめてみます。気をつけなければならないのは、このような習慣や価値観が必ずしもカレン一般に適用できるわけではないこと、そして、多くの点がビルマ民族を含めたミャンマーの諸民族(とくに農村部で伝統的な生活を送る人々)と共通することです。

家族

カレンに限らずミャンマーに住む人々の家族には、祖父母や叔父叔母(伯父伯母)、そして他の文化では非常に遠いと考えられるような親戚も含まれます。親しい友人も家族の一部とみなされることがあります。カレンの間では、家族関係がまったくない人を「弟」と紹介することも頻繁にあります。子どもたちは結婚するまで親と住み、結婚後もずっと親の助言を得て、それに従います。(耳を引っ張る、片足で立たせる等の)子どもに対する体罰は

広く行われ、社会的に認容されています。経済的には、家族の構成員全員が家計を支えるために働きます。家族の一人が給料のよい仕事についている場合、必要とあらば、その一人が家族全体を支えることが期待されます。

結婚

結婚は非常に重んじられている制度で、同棲や婚前交渉は禁じられていますが、密会などは行われます。社会的に認められていない性交渉が行われていることが明らかになった場合、通常、女性側が責められ、罰を受けます。親の取り決めによる結婚も未だにある程度行われていますが、うまくいっていない夫婦は結婚を取消することができます。異民族間の結婚も行われており、一般的には受容されていますが、あらゆる異民族との結婚が同じように受容されているわけではありません。

ジェンダーによる役割分担

女性は、料理、掃除、子育て、男性である親戚全員の世話、その他全ての家事を行うべきであると考えられています。ほとんどの女性は、ある程度教育があっても、この役割を喜んで果たしています。男性は、稼ぎ手であることを期待されます。しかし、カレン民族の社会で、女性が尊敬されていないわけではありません。例えば、タイのいくつかのキャンプではキャンプ内の委員会指導者が女性であり、カレン軍には女性「小隊」もあります。カレン社会内が混乱しているため、賃金を得られるような仕事があれば、女性も必要に迫られてそうした仕事に就いています。

宗教

先述のとおりミャンマー国内におけるカレンの多数派は仏教徒ですが、タイのキャンプで暮らすカレン難民ではキリスト教徒の比率が高くなっています。その大多数はバプティスト派です。ほかにも英国国教会派、カトリック、安息日再臨派などの人々がいます。

住居

難民は、水道や電気のない竹の家に住むことに慣れています。屋根は大きな葉などで葺いてあり、雨の日にはよく水漏れします。家具は少しあるか、まったくない状態で、皆、床に座ります。調理は家のすぐ横にある調理場で行います。トイレは、住居から少し離れたところにある小屋の中の穴です。

医療

ミャンマーでは医療制度が劣悪なため、多くのカレン民族は薬草や民間療法に頼っています。タイのキャンプに住んだことのある難民は近代的医療を知っており、これを受入れています。

教育

これもミャンマーの人々に共通して言えることではありますが、カレンはみな教育を非常に重んじています。しかし、ミャンマーの教育水準は非常に低い状態です。10～20の村に学校が一つしかないことも、子どもたちが教室に辿り着くまで何時間も歩かなければならないこともあります。学校が少ないのは、教師が不足しているからです。一般的に、村の住民たちは教師に給料を払うことができるほどの収入がなく、賃金の代わりに食べ物や住む場所のみを提供します。タイの難民キャンプ内の学校は、ミャンマーの学校よりも質が高く、両親はキャンプの学校に子どもが通学するのを喜んでいます。教育の方法はほとんど教師が決め、暗記や、全員で繰り返し音読するという方法が標準的です。生が教師に質問したり、反対したりするのは失礼だと考えられています。学生が教室で発言するときは、尊敬の念を示すため、立ちあがって胸の前に腕を組んで話すように教えられます。目線は下で、教師や社会的に目上の者の目を直接見ることはありません。教師は非常に尊敬されており、名前ではなく「先生」と呼ばれます。自分よりも賢明で、身分の高い者も「先生」と呼びます。これらの点はミャンマーの人々に共通する事柄です。

尊敬の念を示す

年長者は若い世代に必要な知恵の源と見なされ、若者は年長者の意見を聞き、それに従い、それに対して意見を述べるべきではないと考えられています。子どもたちは、年をとった親の面倒を見ることになっており、その義務の懈怠はひどい屈辱となります。

名前

他のミャンマー諸民族と同様にカレンには、日本人のような姓と名の概念がありません(但し、カチン民族には姓があります)。名前のつけ方は多様で、都市部に住むビルマ人と長い接触を持つ人々、あるいはビルマ化した仏教徒カレンは、ビルマ民族風の名前をごく普通の習慣としてつけます。これは他の少数民族にも共通する事柄です。

カレンに特徴的な命名例として、キリスト教徒のスゴー・カレンの名前についてみてみましょう。キリスト教徒スゴーの名前は、(町などの)地名や物、(月曜日などといった)時間によって決まることがよくあります。例えば、「ノーデイニャ(Naw Day Nya)」は「百合」、「ソーサームー(Saw Hsar Moo)」は「星のような人」という意味です。20世紀にキリスト教がカレン民族に広まったことから聖書に由来する英語の名前の人気が高まり、ザイオン(Zion、ダビデが宮殿を建てた聖丘シオンのこと)、マーシー(Mercy、慈悲)、ベテル(Bethel、ヤ

コブが神から授かった地のこと)、ジュビリー (Jubilee、キリスト教の聖年)、ベイビー・モーゼ (Baby Moses、幼きモーゼ) といった名前もあります。ピーピー (Pi Pi)、ワーワー (Wah Wah)、ウィーウィー (Wee Wee) といった名前は、他の文化圏の人々には変わった名前に聞こえるかもしれません。

身体言語(言葉を使わないコミュニケーション)

- 東南アジア人の多くがそうであるように、頭は特に重要であり、触ってはいけません。逆に、足は体の中で最も低い地位を占めているので、足で人を指したり、足を投げ出したりしてはいけません。(床に)座る際は、足は体の下にきちんと折り込まなくてはなりません。
- 握手はよく行われますが、握手の仕方が他の文化とは異なります。カレン民族は右手を左手で支え、特別な尊敬の念を示すため、目線を下げます。
- 誰かに物を渡すとき、カレン民族は、尊敬の念をこめて両手で渡します。左手はトイレで体を(紙ではなく水で)洗うときに使うので、左手で物を渡すことはしません。
- 他人の前で男女が互いに触れることや、愛情表現をすることはほとんどありません。しかし、男性が他の男性の手を握ったり、膝に手を置いたりして友情を示すことはよくあります。
- 人を手招きする場合、手のひらは下に向けます。手のひらを上に向けるのは、小さな子どもや犬を呼ぶときです。人差し指で呼ぶのは失礼にあたり、ケンカを売るときなどにすることです。

問題への対処

他の多くのミャンマー諸民族と同様にカレン民族は、問題を抱えていても、自分の問題で他人に迷惑をかけることを躊躇するので、「大丈夫」といって微笑みます。同様に、怒っているときでも怒りを表さず、一人になったり、問題を避けて、酒に酔って忘れようとしたりすることもあります。怒りを顔にする人はほとんどいません。

時間

東南アジア一般に共通することですが、ミャンマーには時間厳守という概念はあまりありません。時間通りに到着する人も多いのですが、約束の時間より多少早かったり遅かったりしてもよいという「ミャンマー標準時」で生活することに慣れている人が大部分です。

食事

ほとんどのカレン民族は、毎食、米を食べます。米には、発酵させた魚のペーストである「ニャーユーティー (Nyar Euh Htee)」で味付けをします。野菜や魚を使った様々な料理

が、米と一緒に出されます。家族全員が、床の敷物の上に並べられた料理と一緒に食べます。

その他

カレン民族に限らないミャンマーの人々の習慣ですが、多くのカレン民族も、ほてりや日焼けを防ぐため特定の木から作られた「タナカ(Tanaka)」というクリームを塗ります。この黄色いクリームは、日本ではとても奇抜に見えることでしょう。男性も女性もビンロウジを噛むので、歯が黒くなり、茶色のつばをたくさん吐く人々もいます。ヘビースモーカーも多く含まれます。大規模に生産されているタバコはぜいたく品と考えられ、ほとんどの人が自分で両切り葉巻を巻きます。

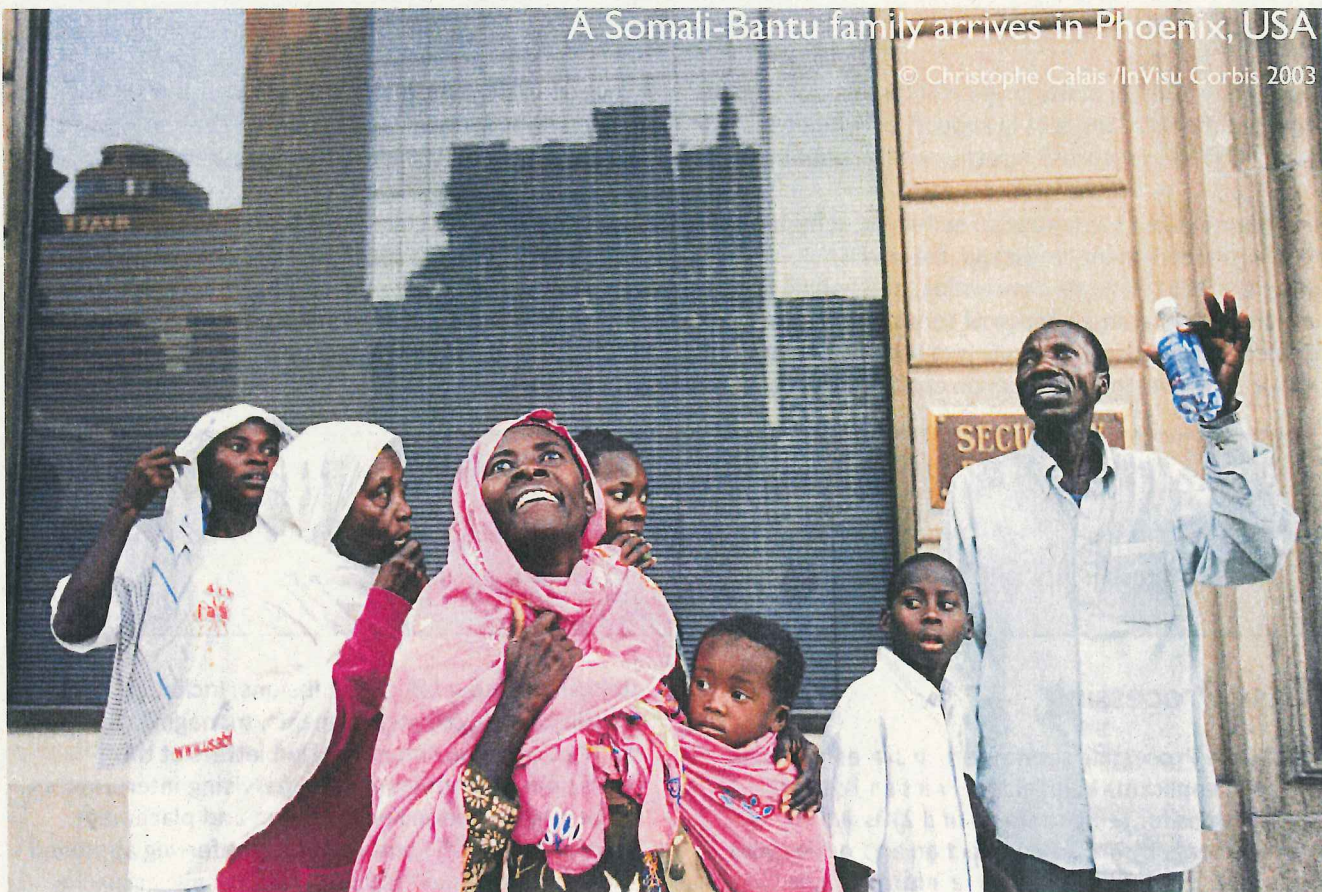


Tanaka

監修：池田 一人（上智大学非常勤講師）

A Somali-Bantu family arrives in Phoenix, USA 1

© Christophe Calais / InVisu Corbis 2003



IOM Resettlement Services

Purpose and Partnership

For more than 60 years, IOM has played a vital role in refugee resettlement around the world. As part of its global contribution to migration management, IOM fosters refugee integration through comprehensive resettlement services. Article 1 of the IOM Constitution mandates the Organization to "... concern itself with the organized transfer of refugees, displaced persons and other individuals in need of international migration services for whom arrangements may be made between the Organization and the States concerned, including those States undertaking to receive them."

Resettlement is a sometimes unrecognized yet compelling instrument and symbol of international solidarity and burden sharing to find a durable solution for refugees who are unable to return to their country of origin for fear of continued persecution and do not have the option to stay in their country of asylum. IOM works closely with governments, the United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR), non-government organizations and other partners. Usually, UNHCR identifies refugee cases and submits them to a government for resettlement consideration and then, subsequently, IOM services begin under cooperative agreements with the governments of resettlement, but in some instances countries refer refugees without UNHCR involvement. Resettlement countries provide refugees with legal and physical protection, including access to civil, political, economic, social and cultural rights similar to those enjoyed by nationals. The vast majority of refugees eventually become naturalized citizens of their country of resettlement.



International Organization for Migration (IOM) • 17 Route des Morillons, CH-1211, Geneva 19, Switzerland
 Tel.: +41 22 717 9111 • Fax: +41 22 798 6150 • E-mail: RWGHQ@iom.int • Internet: www.iom.int

Founded in 1951 to assist in the resettlement of Europeans displaced in the aftermath of World War II, IOM has provided essential services in support of refugee resettlement operations for over six decades. In the last decade alone, IOM has organized resettlement movements of 892,243 refugees from 186 locations around the world.

Resettlement is a humanitarian endeavor, sometimes life saving and always life changing. Looking ahead at the evolving resettlement landscape, there will be increasingly more people forced to move who are not protected under the 1951 Refugee Convention, and finding good durable solutions will require the collaborative engagement of many actors across a range of services. IOM is well suited to meet the challenge, and assist governments to help refugees integrate successfully into receiving communities. Successful resettlement is migration management at its best, it's an investment in human capital and an empowerment of people.

Upon the request of governments, IOM provides the following resettlement services:

- Case Processing
- Health Assessments and Travel Health Assistance
- Pre-Departure Orientation/Integration
- Movement/Travel Operations

Case Processing

IOM Case Processing services are designed to 1) help refugee applicants in lodging correct and complete applications for refugee status and 2) assist governments by providing selection authorities with accurate, detailed and objective information in standard formats in order to streamline the interview and selection process. IOM caseworkers are trained to conduct thorough non-adversarial interviews and case assessments to verify the eligibility and identity of each refugee applicant, to obtain biographic and demographic information required by governments and resettlement agencies and to accurately chronicle each applicant's claim for refugee status. A focus on intensive initial case preparation is aimed at reducing the number of times each case must be reviewed or deferred by selection authorities pending further information.

Through the use of its proprietary case management tools, IOM tracks refugee applicants through each stage of the resettlement process, including Health Assessments, Pre-departure Orientation and Movement/Travel to ensure that approved refugee cases are ready to travel ready in the timely manner required by the resettlement countries.

Hallmarks of IOM Case Processing services are adherence to standard operating procedures, strict confidentiality and data protection standards, multi-level quality assurance controls at each stage of processing and robust anti-fraud measures to ensure program integrity.

Case Processing services may include any or all of the following elements: conducting in-depth personal interviews with refugee applicants to elicit complete case information and an accurate record of testimony; gathering all required bio-data; providing on-site

assistance during selection missions, including scheduling refugee appointments, managing case files, distributing government decision letters at the conclusion of interviews and supervising interpreters, requesting and receiving reception and placement information for all approved cases; referring approved applicants to designated panel or IOM physicians for medical exams; receiving completed medical exams for each case member and notifying relevant government authorities and/or resettlement agencies of health conditions requiring follow up treatment in receiving countries.



IOM Case Processing improves the efficiency of country selection missions

© IOM, 2009 (Photo by: Kari Collins).



IOM employs internationally accepted protocols and practices for detection and treatment of tuberculosis. © IOM, 2009 MNP0076 (Photo by: Kari Collins).

Health Assessments and Travel Health Assistance

Health assessments in the context of refugee resettlement constitute one of IOM's most established activities. Refugees are a particularly vulnerable population, with health profiles that vary according to the displacement experience, pre-existing health conditions and epidemiological profiles, among other factors. Health Assessments and Travel Health Assistance ensures that refugees are fit to travel and meet the requirements of the resettlement country.

Health assessments of refugees admitted for resettlement to third countries are funded and carried out at the request of resettlement countries such as Australia, Canada, Denmark, New Zealand, Norway, the United Kingdom, the United States and others. Health assessment protocols are based on the legislation and/or best practices of resettlement country governments, and are performed prior to a refugee's departure for resettlement. Pre-departure refugee health assessments are intended to ensure that people travel in a safe and dignified manner, are fit to travel, receive appropriate assistance when required, and do not pose a hazard to other travellers or receiving communities.

Traditional components of refugee health assessments conducted by IOM's Migration Health Division (MHD) include an assessment of conditions of public health significance, pre-departure treatment and referrals

(including pre-travel hospital stabilization), pre- and post-test counseling, fitness-to-travel assessments and medical escorts, when required. Individuals in need of travel health assistance (medical escort) during transportation are identified at the time of the health assessment to ensure that they travel safely and without undue hardship to themselves or to other travellers, and avoid in-flight medical emergencies or flight deviations. Specific provisions to the health assessment protocol (e.g. additional diagnostics, treatment, immunizations, referrals) are made upon request of resettlement countries in order to ensure safe travel, to facilitate proper follow-up of medical cases after arrival and to facilitate the integration of refugees into their receiving communities.

Pre-departure Orientation/Integration

IOM provides pre-departure cultural orientation training courses for refugees accepted for resettlement. Over the past 20 years, IOM has conducted courses for over 350,000 refugees at more than 60 locations.

Cultural orientation prepares refugees by providing practical information on country of destination, and assists refugees in setting realistic goals and developing the skills and attitudes needed to succeed in their new environment. IOM works closely with governments to identify the key priority messages and values that are critical for refugees' successful resettlement. Pre-departure orientation is designed to assist refugees to

develop realistic expectations and to become self-sufficient more quickly. Courses by IOM's multilingual, multi-ethnic trainers help refugees anticipate integration challenges and facilitate their transition into the receiving society. Topics addressed in the orientation include housing, health, money management, role of settlement service providers, education, cultural adaptation, rights and responsibilities, and others. Upon request, IOM conducts needs assessments and produces cultural profiles of new refugee populations designed to help service providers better plan for their arrival.

Language and literacy training equips refugees with basic language and communication skills in order to facilitate the adjustment process and help refugees become more independent. With knowledge of these functional and practical skills, refugees are able to increase their chances for employment and become productive members of the receiving society.

Pre-embarkation briefings prepare refugees for their flight, including what to expect at the airport, in-flight, while in transit, and upon arrival in country of destination. The briefings also address safety, customs and immigration formalities, and how to travel with children. IOM offers these briefings as close to departure as possible in order to ease the process and help first-time travellers feel less anxious and more prepared for the journey.

Movement/Travel Operations

Migration implies movement. Arranging the safe and orderly movements of refugees and other vulnerable persons is the cornerstone of IOM's Constitutional mandate to "concern itself with the organized transfer of refugees, displaced persons and other individuals in need of international migration services for whom arrangements may be made between the Organization and the States concerned, including those States undertaking to receive them."

IOM's worldwide network of experienced movement operations staff, supported by global agreements with major airlines (offering preferential fares and priority service to IOM passengers) along with proprietary movement management applications and operations protocols, all serve to ensure that refugees are transported smoothly from remote, often far-flung locations to their final resettlement destinations. Movement services for refugees travelling under IOM auspices may include any or all of the following;

- **Obtaining travel documents:** exit permits, transit/entry visas, passports, etc.
- **Pre-embarkation orientation:** flight schedules, airline regulations, customs requirements, assistance in transit and upon arrival, etc.



Pre-departure Orientation equips refugees with the tools required for successful integration. © IOM, 2009 - MNP0079 (Photo by: Kari Collins).



Refugees begin their journey with a charter flight from Kibondo, a remote location in western Tanzania. © IOM, 2007 (Photo by: Pindie Stephen).

- **Transportation to and passenger handling at embarkation airports:** assisted check-in, help with customs and immigration formalities, etc.
- **Arrangement of international and domestic air tickets:** reduced fares, preferential baggage allowances, selected routings, etc.
- **Provision of operational/medical escorts:** help for passengers with special needs, monitoring and attending to medical requirements en route, liaison with flight staff and other authorities, etc.
- **Assistance in transit:** meals and accommodation as needed, direction to connecting flights, booking adjustments, etc.
- **Arrival assistance:** meet and assist services on arrival, notification and handover to reception authorities, etc.

IOM moves most refugees by scheduled commercial air service using its unique negotiated agreements with leading airlines; however, IOM also maintains standby agreements with air charter operators to conduct movement operations in remote locations or where large numbers of refugees must be moved quickly.

Real-time information management and monitoring of refugee movements and established communication protocols ensure that passengers under IOM auspices travel safely and that all partners are kept informed of their progress from take-off to landing.

For over 60 years, moving refugees to begin new lives with dignity and respect in a safe and orderly fashion has been and continues to be a fundamental purpose and priority of the Organization.

To better assist refugees and governments, IOM strives for excellence across all resettlement service areas, placing emphasis on flexibility, efficiency, and consistent high quality.

1. Develop curricula and supporting activities with destination country. Key messages should be identified in consultation with receiving countries, and include the cultural, linguistic and socio-economic challenges that refugees will face.

2. Recognize the transitional continuum: link pre-departure and post-arrival activities.

Information should be shared throughout with those engaged in reception and integration.

3. Consider the timing of courses. Schedule courses as close to departure as possible to increase relevancy of the lessons, and maximize refugees' focus and retention.

4. Develop trainings that are participatory and learner-centric. Refugees learn best and the lessons are more meaningful when the course is experiential and highly participatory. One example is for refugees to teach one another, an approach that increases retention and builds self-esteem and self-confidence.



Palestinian girl at Al-Waleed Refugee Camp, western Iraq. © IOM, 2008 (Photo by: Craig Murphy).

5. Address content and skills and attitudes.

While accurate information about the country of destination is relevant, it is equally important to build productive attitudes for successful adaptation, including pro-activity, self-sufficiency, and resourcefulness.

6. Train in refugees' native language. Whenever possible, pre-departure orientation courses should be conducted in refugees' native language, ideally by trainers who share refugees' cultural background. Both of these points are particularly relevant with pre-literate and or vulnerable refugees.

7. Address psychosocial issues in pre-departure training. Pre-departure orientation goes beyond dispensing information about receiving countries; it should also address the psychosocial well-being of participants, taking into account the social, anthropological, cultural and the psychological aspects of resettlement. As such, it is vital to develop pre-departure courses which are holistic and address the concerns of participants. Topics include cultural adaptation, culture shock, communication, family dynamics, gender, and cross-generational issues among others.

8. Create a non-threatening learning environment. A welcoming training atmosphere of inclusion— in which all participants are shown respect— fosters a greater sense of belonging and encourages risk-taking and learning. Many refugees have little or no formal education, and therefore it is critical that trainers consider both the educational and cultural backgrounds of their participants in planning lessons.

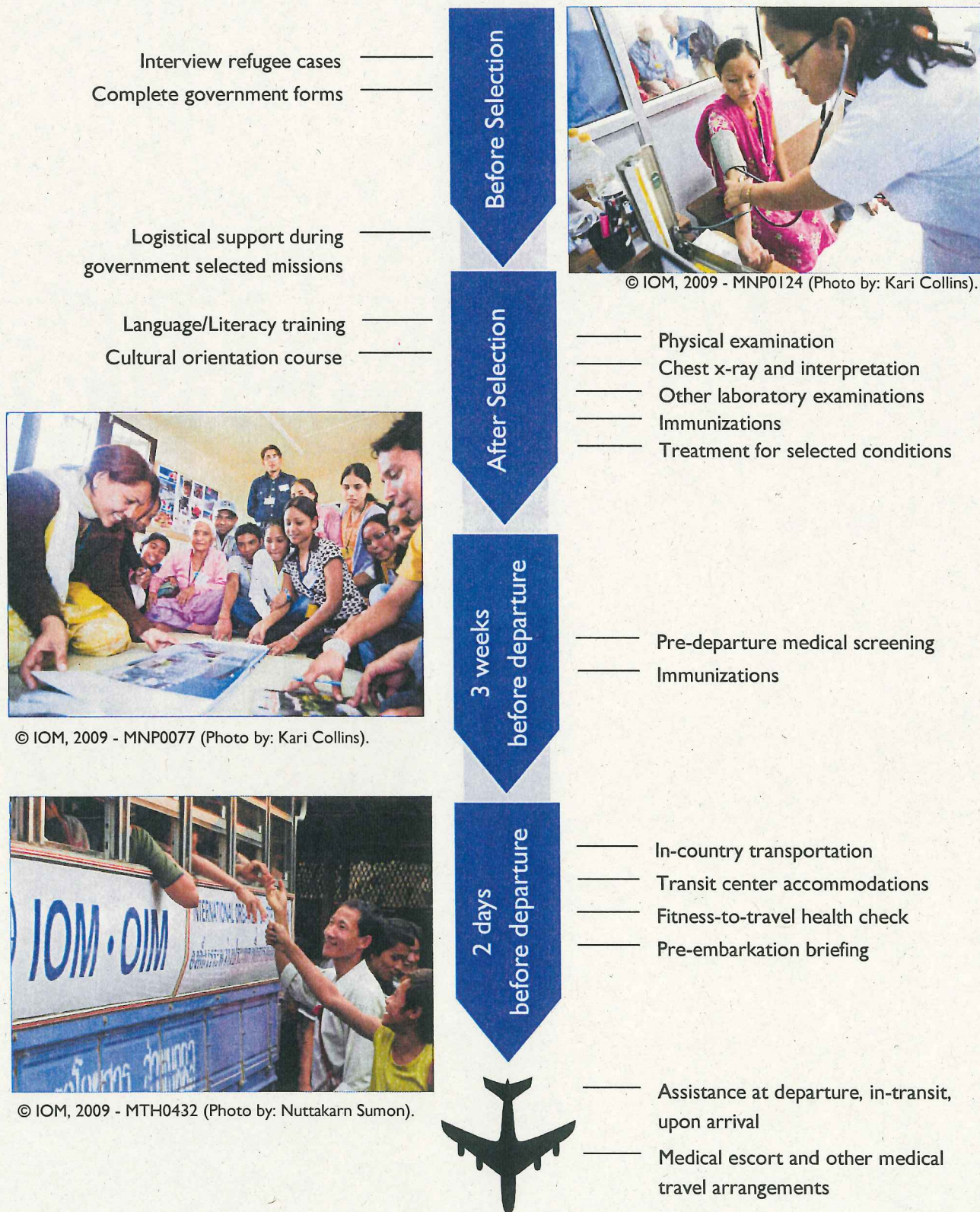
9. Promote gender equality. It is important to provide an open and secure learning environment in which gender equality is promoted. This sends an important message that the destination country values the role that both men and women play, and paves the way for future social interaction and learning opportunities where women's participation is not only encouraged but expected.

10. Reaffirm the dignity and positive contributions of every refugee. Refugees should be made to feel valued for their cultural background and experiences and, conversely, receiving communities should be made aware of the positive contributions that refugees offer, including social, economic and cultural contributions.

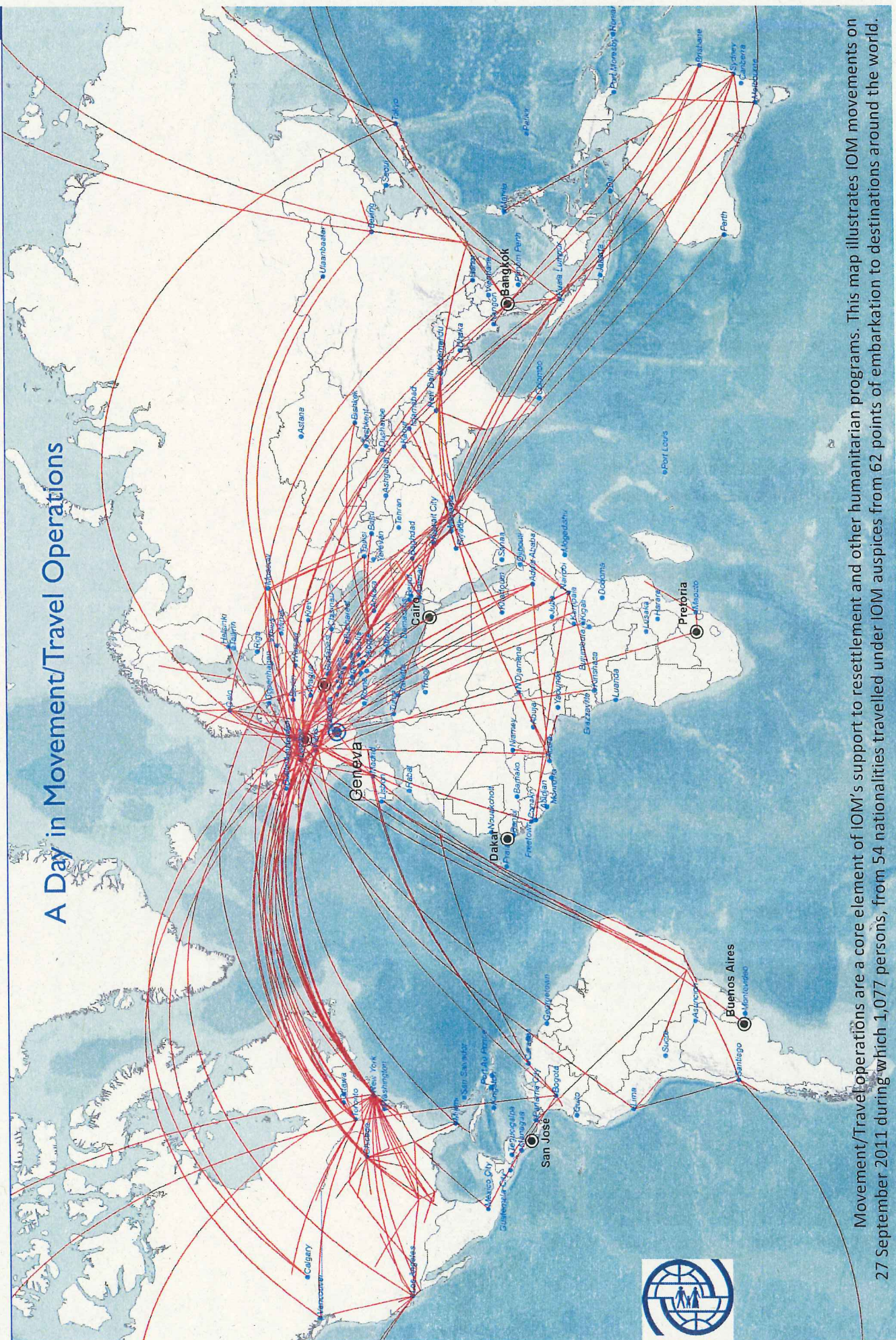
Flow Chart of Refugee Resettlement Activities

7

This chart is indicative of the refugee resettlement process, from the point before a case is selected by a resettlement country until arrival in that country. Not all resettlement cases follow this exact process. For example, some resettlement countries do not include cultural orientation courses or health assessments. Further, there may be some variation in the order of activities.



A Day in Movement/Travel Operations



Movement/Travel operations are a core element of IOM's support to resettlement and other humanitarian programs. This map illustrates IOM movements on 27 September 2011 during which 1,077 persons, from 54 nationalities travelled under IOM auspices from 62 points of embarkation to destinations around the world.